

## 福岡県の気象概況（平成16年1月～12月）

福岡管区気象台

### （1）1月の気象概況

#### ○1月上旬：晴れの日が多い

上旬は中頃を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多かった。2日は気圧の谷の影響で、県内各地で0～8ミリの雨が降った。気温は、平年並か平年より高く経過したが、9日は放射冷却により気温が下がり、県内各地で氷点下となった所が多かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.6℃高く、旬降水量は0～8ミリ（平年比0～32%）と少なく、旬日照時間は平年比120～156%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。

#### ○1月中旬：天気は短い周期で変化、気温は低い

中旬は一時的に冬型の気圧配置となった日もあったが、天気は短い周期で変化した。13日は冬型の気圧配置となり寒気が流れ込んだ影響で、県内各地で1～6ミリの降水を観測した。16日から17日にかけては低気圧が九州南海上を通過したため、県内各地で11～29ミリの雨が降った。18日から20日にかけては朝鮮半島付近にある低気圧が東進した後、冬型の気圧配置となり寒気が流れ込んだ影響で、県内各地で4～19ミリの雨が降った。気温は平年並か平年より低く経過し、特に14日は放射冷却により気温が下がり、最低気温が黒木で-4.3℃を観測するなど冷え込んだ。県内各地の旬平均気温は平年より0.1～0.8℃低く、旬降水量は21～47ミリ（平年比65～181%）で、旬日照時間は平年比106～139%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量と日照時間は多かった。

#### ○1月下旬：27日まで冬型の気圧配置が続き、気温はかなり低い

**22日は久留米で18センチの積雪、23日は黒木で最低気温-7.8℃**

下旬は21日に寒冷前線が通過した後、27日まで冬型の気圧配置が続き、強い寒気が流れ込んだため雪やみぞれの天気となった。21日は福岡で3センチ、22日は久留米で18センチ、飯塚で7センチ、八幡で4センチの積雪を観測した。積雪や路面凍結により県内各地でスリップ事故や転倒事故が相次いだほか、交通機関に道路の通行止めなど大きな影響があった。気温は、旬の中頃までは平年を大きく下回り、22日から23日は県内で、日最高気温（22日に添田で-2.8℃など）や日最低気温（23日に黒木で-7.8℃など）の低い方からの第1位を記録した所があった。県内各地の旬平均気温は平年より1.7～2.9℃低く、旬降水量は1～30ミリ（平年比8～124%）で、旬日照時間は平年比107～138%と多かった。また、宗像、八幡、行橋、太宰府では1月の月間日照時間の多い方からの第1位を記録した。

福岡の旬の平均気温はかなり低く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

## (2) 2月の気象概況

### ○2月上旬：冬型の気圧配置が続き、曇りや雪または雨の日が多い

上旬の初めは低気圧の接近で、3日から7日にかけては冬型の気圧配置が続いたため曇りや雪または雨の日が多かった。2日は寒冷前線が通過したため、県内各地で0～8ミリの雨が降った。4日から7日にかけては寒気が流れ込んだ影響で、県内各地で0～10ミリの降水を観測した。気温は、旬の初めは3月下旬並の暖かさとなったが、中頃からは寒気が流れ込んだ影響で平年並か平年より低くなった。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.7\sim+0.2^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は5～14ミリ（平年比24～60%）で平年並か少なく、旬日照時間は平年比67～92%と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量と日照時間は少なかった。

### ○2月中旬：晴れの日が多い、14日は九州北部地方で春一番

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。14日は低気圧が発達しながら日本海を東北東進し、九州北部地方では南よりの暖かい風が強く吹いて気温が上昇したため、福岡管区气象台は「九州北部地方で春一番が吹いた」と発表した。気温は平年より高く経過し、特に20日の最高気温は甘木で $23.1^{\circ}\text{C}$ 、久留米で $22.3^{\circ}\text{C}$ を観測するなど、各地で4月下旬から5月上旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より $1.5\sim 2.6^{\circ}\text{C}$ 高く、旬降水量は0～1ミリ（平年比0～3%）とかなり少なく、旬日照時間は平年比154～196%とかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

### ○2月下旬：天気は周期的に変化、気温はかなり高く、降水量は多い

下旬の中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、初めと終わりは前線の影響で雨となった。22日は日本海の低気圧から延びる寒冷前線が九州を通過したため、県内各地で8～35ミリの雨が降った。28日から29日にかけては寒冷前線が九州を通過したため、県内各地で35～111ミリのまとまった雨が降った。29日の降水量は黒木で83ミリ、甘木で74ミリを観測し、2月の日降水量の多い方の第1位を記録した。気温は平年より高く経過し、特に21日は日最高気温が甘木で $24.7^{\circ}\text{C}$ となるなど、県内の多くの観測所で2月の日最高気温の高い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より $3.3\sim 4.6^{\circ}\text{C}$ も高く、旬降水量は44～136ミリ（平年比178～508%）と多く、旬日照時間は平年比127～157%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり多く、日照時間は多かった。

### (3) 3月の気象概況

#### ○3月上旬：曇りや雨または雪の日が多く、気温は低い

上旬は中頃まで低気圧や前線、寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多かったが、終わりは高気圧に覆われて晴れた。3日は前線の影響で、県内各地で2～13ミリの雨が降った。5日は前線の影響で、県内各地で2～11ミリの雨が降った。気温は、寒気が流れ込んだ影響で平年より低い日が多く、7日は県内各地で平年より約6～8℃も低くなり真冬並の寒さとなった。8日は放射冷却の影響で、日最低気温が黒木で-4.3℃を観測し、3月の日最低気温の低い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より0.7～2.3℃低く、旬降水量は5～32ミリ（平年比15～65%）で平年並か少なく、旬日照時間は平年比98～128%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量と日照時間は平年並であった。

#### ○3月中旬：天気は短い周期で変化、気温は高い、17日は福岡でソメイヨシノ開花

中旬は高気圧や前線が交互に通過し、天気は周期的に変化した。11日から12日にかけては寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で0～8ミリの雨が降った。17日から18日にかけては寒冷前線が対馬海峡を南下し、県内各地で5～27ミリの雨が降った。気温は平年より高く経過し、特に16日から17日は日最高気温が各地で20℃を超え、5月上旬並の暖かさとなった。また、17日は福岡でソメイヨシノの開花（平年より9日早い、昨年より5日早い）を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より2.1～2.8℃高く、旬降水量は5～32ミリ（平年比10～62%）と少なく、旬日照時間は平年比113～153%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

#### ○3月下旬：天気は短い周期で変化、日照時間は多い

下旬は高気圧や低気圧が交互に通過し、天気は短い周期で変化した。21日から22日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で30～43ミリの雨が降った。30日は低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で18～30ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃まではほぼ平年並で経過したが、終わりは平年よりかなり高くなった。28日の日最高気温は甘木で24.5℃、29日の日最高気温は黒木で23.4℃を観測し、それぞれ3月の日最高気温の高い方からの第1位を記録した。また、30日は福岡でソメイヨシノの満開（平年より4日早い、昨年より2日遅い）を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.5～1.6℃高く、旬降水量は53～72ミリ（平年比74～138%）で、旬日照時間は平年比134～150%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は多かった。

#### (4) 4月の気象概況

##### ○4月上旬：晴れの日が多く、降水量は少ない

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日から2日にかけては低気圧が九州北岸を通過し、県内各地で4～18ミリの雨が降った。4日は四国沖の低気圧が東へ進み、県内各地で3～11ミリの雨が降った。7日は山陰沖の低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で2～17ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃に平年より低くなったが、その他の日は平年並か平年より高かった。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.7\sim+0.5^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は13～46ミリ（平年比23～74%）で少なく、旬日照時間は平年比131～156%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は多かった。

##### ○4月中旬：晴れの日が多い、気温はかなり高い

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。18日から19日にかけては東シナ海の低気圧が日本海へ進み、この低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で11～70ミリの雨が降った。気温は、旬を通して平年より高く経過し、特に17日は甘木で日最高気温 $28.5^{\circ}\text{C}$ を観測するなど県内のほとんどの観測所で日最高気温が $25^{\circ}\text{C}$ 以上の夏日となった。県内各地の旬平均気温は平年より $2.9\sim3.9^{\circ}\text{C}$ 高く、5月上旬から中旬並の暖かさとなった。旬降水量は12～73ミリ（平年比34～144%）で、旬日照時間は平年比98～124%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

##### ○4月下旬：晴れの日が多い、26日から27日はまとまった雨

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。26日から27日にかけては黄海の低気圧が日本海に進み、この低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で28～129ミリのまとまった雨が降った。気温は、旬の初めは平年よりかなり高かったが、中頃からは平年より低く経過した。特に22日の日最高気温は福岡で $29.9^{\circ}\text{C}$ 、行橋で $29.8^{\circ}\text{C}$ 、八幡で $29.5^{\circ}\text{C}$ を観測し、それぞれ4月の日最高気温の高い方からの第1位を記録した。また、福岡、飯塚を除くすべての観測所で4月の月間日照時間の多い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.6\sim+0.8$ で、旬降水量は28～137ミリ（平年比66～180%）で、旬日照時間は平年比133～157%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

## (5) 5月の気象概況

### ○5月上旬：曇りや雨の日が多い、3日は九千部山で日降水量182ミリ

上旬の中頃は高気圧に覆われて晴れたが、その他の日は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。2日から4日にかけては低気圧が黄海から日本海に進み、この低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で49～205ミリの大雨が降った。3日は九千部山で日降水量182ミリを観測し、5月の日降水量の多い方からの第1位を記録した。9日から10日にかけては黄海の低気圧が日本海に進み、この低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で12～59ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃に平年を下回った低い日もあったが、その他の日は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.1～2.2℃高く、旬降水量は63～264ミリ(平年比103～330%)で、旬日照時間は平年比58～91%と少ない所が多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

### ○5月中旬：曇りや雨の日が多い、気温は高い

中旬は前線の影響で曇りや雨の日が多かった。13日は日本海の低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で30～123ミリのまとまった雨が降った。15日から17日にかけては東シナ海で発生した低気圧が日本海へ進み、この低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で69～159ミリのまとまった雨が降った。気温は、旬の終わりは平年を下回ったが、その他の日は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.4～1.0℃高く、旬降水量は108～290ミリ(平年比157～393%)と多く、旬日照時間は平年比53～76%と平年並か少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。

### ○5月下旬：晴れの日が多い、28日は宗像で日最高気温31.6℃ 九州北部地方は29日ごろ梅雨入り

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。29日は梅雨前線が対馬海峡付近に停滞し、九州北部地方は29日ごろ梅雨入りした(平年より7日早く、昨年より11日早い)。30日から31日にかけては梅雨前線が九州をゆっくり南下したため、県内各地で42～118ミリのまとまった雨が降った。気温は、旬の前半はほぼ平年並であったが、後半は平年よりかなり高くなった。特に28日は南から暖かい空気が流れ込んだため気温が上がり、日最高気温は宗像で31.6℃を観測するなど、ほとんどの観測所で日最高気温が30℃以上の真夏日となった。県内各地の旬平均気温は平年より1.5～2.3℃高く、旬降水量は42～137ミリ(平年比86～250%)で、旬日照時間は平年比98～137%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

## (6) 6月の気象概況

### ○6月上旬：晴れの日が多い

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。梅雨前線は一時的に九州北部まで北上したが、その他の日は九州の南海上に停滞することが多かった。6日から8日にかけては梅雨前線が九州北部付近まで北上したため、県内各地で8～46ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃まで平年並か平年より高く経過したが、終わりは平年より低かった。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.1\sim+1.1^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は8～46ミリ（平年比14～68%）と少なく、旬日照時間は平年比117～175%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

### ○6月中旬：前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多い、気温は高く、降水量は少ない 20日は太宰府で日最高気温 $37.7^{\circ}\text{C}$

中旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は梅雨前線や台風第6号等の影響で曇りや雨の日が多かったが、県内各地の降水量は0～25ミリと少なかった。気温は平年より高く経過し、特に20日は台風第6号による南風でフェーン現象が発生したため県内各地で気温が上昇し、日最高気温は太宰府で $37.7^{\circ}\text{C}$ 、甘木で $37.6^{\circ}\text{C}$ 、福岡で $37.3^{\circ}\text{C}$ などを観測し、県内のほとんどの観測所で6月の高い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より $1.1\sim 2.7^{\circ}\text{C}$ 高く、旬降水量は1～33ミリ（平年比1～21%）と少なく、旬日照時間は平年比139～216%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。

### ○6月下旬：中頃は梅雨前線の活動が強まる、26日は柳川で日降水量 204 ミリ

下旬の中頃は梅雨前線が九州北部付近に停滞し、県内各地で大雨が降った。22日と旬の終わりは高気圧に覆われて晴れた。21日は台風第6号が日本海中部へ進んだ影響で、県内各地で0～58ミリの雨が降った。24日から27日にかけては梅雨前線が対馬海峡から九州中部付近に停滞し、前線の活動が活発となったため、県内各地の4日間の降水量は167～367ミリに達した。特に26日は柳川で1時間に53ミリ、日降水量204ミリ、黒木で1時間に62ミリ、日降水量195ミリ、頂吉で1時間に48ミリ、日降水量152ミリ、行橋で1時間に57ミリ、日降水量130ミリの大雨が降った。26日の柳川の日降水量204ミリは、6月の日降水量の多い方からの第1位の記録となった。県内各地の旬平均気温は平年より $1.0\sim 1.8^{\circ}\text{C}$ 高く、旬降水量は176～378ミリ（平年比82～210%）で、旬日照時間は平年比109～180%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

## (7) 7月の気象概況

### ○7月上旬：中頃までは晴れの日が多い、気温は高い

上旬の中頃までは高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、7日からは低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨となった。3日から4日にかけては台風第7号が大陸東岸を北上した後、温帯低気圧に変わり、この低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で0～27mmの雨が降った。7日から10日にかけては東シナ海で発生した低気圧が日本海に進み、この低気圧から延びる寒冷前線が対馬海峡に停滞した後、10日になって前線活動を弱めながら九州を南下したため、県内各地で12～129ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃までは平年より高く経過し、終わりはほぼ平年並となった。3日は南から暖かい空気が流れ込んだため気温が上昇し、日最高気温は甘木で35.9℃、久留米で35.1℃を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より1.4～2.3℃高く、旬降水量は18～159ミリ（平年比15～77%）で、旬日照時間は平年比102～177%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

### ○7月中旬：晴れて暑い日が多い、九州北部地方は11日ごろ梅雨明け 20日は高温情報を発表

中旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。九州北部地方は11日ごろ梅雨明けした（平年より7日早く、昨年より20日早い）。15日は太平洋高気圧の周辺部となり、南から湿った空気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、県内各地で0～13ミリの雨が降った。16日も引き続き大気の状態が不安定となり、頂吉で23ミリ、行橋で17ミリの雨が降った。気温は平年よりかなり高く経過し、12日以降は県内のすべての観測所で日最高気温が30℃以上の真夏日が続いた。また、今後も気温が高い状態が続く見込みとなったため、福岡管区気象台は20日に福岡県に高温に関する情報を発表した。県内各地の旬平均気温は平年より1.5～2.8℃高く、旬降水量は0～30ミリ（平年比0～28%）と少なく、旬日照時間は平年比143～234%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。

### ○7月下旬：晴れて暑い日が多い、23日は高温・少雨情報を発表

下旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。26日から27日にかけては太平洋高気圧の周辺部となり、南から湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となったため、26日は篠栗で1時間に64ミリ、27日は八幡で1時間67ミリ（7月の多い方からの第1位）など局地的に雷を伴った短時間強雨となった所があった。気温は平年より高く経過し、県内のほとんどの観測所で日最高気温30℃以上の真夏日が続いた。県内各地の旬平均気温は平年より0.7～1.8℃高く、旬降水量は0～112ミリ（平年比0～180%）で、旬日照時間は平年比101～152%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

## (8) 8月の気象概況

### ○8月上旬：晴れの日が多い、6日は高温・少雨情報を発表

上旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日から2日にかけては台風第10号や南からの湿った空気が流れ込んだ影響で曇りや雨となり、県内各地で7~118ミリの雨が降った。3日からは太平洋高気圧に覆われて晴れたが、強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、7日は英彦山で1時間に32ミリ、9日は柳川で1時間に33ミリなど激しい雨を観測した所があった。気温は、旬の前半は平年より低かったが、後半は平年より高くなった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.2~+1.0℃で、旬降水量は23~139ミリ（平年比49~252%）で、旬日照時間は平年比79~144%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

### ○8月中旬：晴れて暑い日が多い、19日は福岡で日最大瞬間風速30.6m/s

中旬は前半を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。16日から17日にかけては太平洋高気圧の周辺部となり、南から湿った空気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、16日は英彦山で1時間に37ミリ、17日は八幡で1時間に32ミリなど激しい雨が降った所があった。18日から19日にかけては台風第15号が東シナ海を北上し、対馬海峡から日本海を北上したため、県内各地で2~41ミリの雨が降り、福岡で19日に南の風30.6m/sの日最大瞬間風速を観測した。気温は平年より高く経過し、特に18日は台風による南風でフェーン現象が発生したため、県内の半数以上の観測所で日最高気温が35℃以上の厳しい暑さとなった。県内各地の旬平均気温は平年より1.0~2.0℃高く、旬降水量は13~74ミリ（平年比22~113%）で、旬日照時間は平年比101~137%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は平年並であった。

### ○8月下旬：曇りや雨の日が多い、30日は日最大瞬間風速が福岡で37.9m/s、飯塚で37.5m/s

下旬は中頃に高気圧に覆われて晴れた他は、前線や台風第16号の影響で曇りや雨の日が多かった。23日は日本海の低気圧から延びる寒冷前線が南下したため、県内各地で3~67ミリの雨が降った。30日は台風第16号が九州の南海上を北上し、09時半頃鹿児島県串木野市付近に上陸（九州に上陸したのは5年ぶり）した後、速度をやや速めながら九州を縦断して周防灘へ抜け、山口県防府市付近に再上陸し、中国地方を北東に進んだ後、日本海へ抜けた。このため、30日の日降水量は英彦山で172ミリ（8月の多い方からの第1位）を観測するなど、県内各地で22~177ミリの雨が降った。また、県内は台風の暴風域に入り、日最大風速は、宗像で北西の風16m/sを観測し年間の記録を更新したほか、前原、太宰府、添田でも8月の日最大風速の記録を更新し、日最大瞬間風速は、福岡で北北西の風37.9m/s（8月の第5位）、飯塚で北西の風37.5m/s（8月の第2位）を観測した。気温は、旬の初めは平年より低かったが、その後は平年並か平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.1~+1.0℃で、旬降水量は42~223ミリ（平年比46~390%）で、旬日照時間は平年比68~106%であった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は少なかった。

## (9) 9月の気象概況

### ○9月上旬：曇りや雨の日が多い、7日は日最大瞬間風速が飯塚で40.1m/s、福岡で28.2m/s

上旬は前線や台風第18号の影響で曇りや雨の日が多かった。6日は台風第18号が東シナ海を北上し、7日09時半頃長崎市付近に上陸した後、速度を速めながら佐賀県、福岡県を通過、12時頃響灘に抜け日本海へ進んだ。このため、6日から7日にかけては県内各地で32～250ミリの大雨が降り、特に7日は添田で1時間に78ミリ、英彦山で1時間に73ミリ（年間の第1位）の非常に激しい雨を観測するなど9月の多い方からの第1位を記録した所があった。また7日は、県内は朝の内から夕方まで暴風域に入り、大牟田で南南西の風20m/sの日最大風速を観測した他、飯塚で南西の風40.1m/s（年間の第2位）、福岡で西南西の風28.2m/sの日最大瞬間風速を観測した。この暴風により負傷者や住家損壊、農作物の被害などが発生した。気温は、旬の中頃は平年より高かったが、その他は平年より低かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.5～1.2℃低く、旬降水量は74～301ミリ（平年比95～333%）で概ね平年より多く、旬日照時間は平年比48～66%と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。

### ○9月中旬：残暑が厳しい、晴れの日が多かったが大気の状態が不安定

13日は添田で1時間に87ミリ、19日は甘木で1時間に69ミリ

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、上空の寒気や下層の南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で雷を伴った雨が降った。12日から15日にかけては上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で4～97ミリの雨が降った。特に13日は添田で1時間に87ミリ（9月の第1位）の猛烈な雨を観測した。16日から19日にかけては南から湿った空気が流れ込んだ影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で19～87ミリの雨を観測した。特に19日は甘木で1時間に69ミリ（年間の第1位）の非常に激しい雨を観測した。気温は南からの暖かい空気が流れ込んだため、平年よりかなり高く経過し厳しい残暑となった。県内各地の旬平均気温は平年より2.2～2.9℃高く、旬降水量は30～124ミリ（平年比45～230%）で、旬日照時間は平年比99～127%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

### ○9月下旬：曇りや雨の日が多い、29日は日最大瞬間風速が福岡で34.0m/s、飯塚で26.8m/s

下旬は前線や台風第21号の影響で曇りや雨の日が多かった。21日から24日にかけては前線の影響で、県内各地で34～146ミリの雨が降った。26日から28日にかけては前線の影響で、県内各地で0～13ミリの雨が降った。29日は台風第21号の影響で、県内各地で5～117ミリの雨が降った。また、県内は台風の強風域に入り、福岡で北北東の風34.0m/s、飯塚で北北東の風26.8m/sの日最大瞬間風速を観測した。気温は、旬の初めは平年より低かったが、その後は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.7～1.4℃高く、旬降水量は80～266ミリ（平年比119～335%）と多く、旬日照時間は平年比34～79%と少なかった。また、行橋、添田、甘木、英彦山では9月の月降水量の多い方からの第1位を記録し、宗像、行橋、添田、甘木では9月の月間日照時間の少ない方からの第1位を記録した。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

## (10) 10月の気象概況

### ○10月上旬：天気は短い周期で変化、気温は高い

上旬は高気圧や低気圧等が交互に通過して、天気は短い周期で変化した。2日から3日にかけては寒冷前線が九州を南下した影響で、県内各地で0～10ミリの雨が降った。8日から10日にかけては台風第22号が四国沖を北東進した後、気圧の谷が通過した影響で、県内各地で10～154ミリの雨が降った。気温は、旬を通して平年並か平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.4～1.3℃高く、旬降水量は10～164ミリ（平年比29～428%）で、旬日照時間は平年比56～90%と平年並か少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。

### ○10月中旬：晴れの日が多い、20日は日最大瞬間風速が福岡で33.1m/s、飯塚で27.2m/s

中旬は18日までは高気圧に覆われて晴れの日が続いたが、19日から20日にかけては前線や台風第23号の影響で、県内各地で28～251ミリの大雨が降った。特に19日は太宰府で日降水量82ミリ、20日は英彦山で日降水量180ミリの大雨が降るなど、県内7つの観測所で10月の日降水量の多い方からの第1位を記録した。また、20日は京築地方の一部が台風第23号の暴風域に、県内全域が強風域に入ったため、福岡で北の風33.1m/s（10月の第4位）、飯塚で北の風27.2m/s（10月の第2位）の日最大瞬間風速を観測した他、宗像では北東の風16m/sの日最大風速を観測し、年間の第1位タイを記録した。気温は、旬の初めと終わりは平年より高く経過したが、中頃は寒気の影響で平年より低くなった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.5～+0.2℃で、旬降水量は29～255ミリ（平年比119～797%）と多く、旬日照時間は平年比107～131%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり多い、日照時間は多かった。

（注：「J」が付いている値は欠側を含んでいます。）

### ○10月下旬：晴れの日が多い

下旬は周期的に低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、期間全体では高気圧に覆われて晴れの日が多かった。25日から27日にかけては前線や台風第24号から変わった低気圧の影響で県内各地で23～53ミリの雨が降った。29日から31日にかけては低気圧や前線の影響で筑豊・筑後地方を中心に各地で0～7ミリの雨が降った。気温は短い周期で変化した。期間全体では平年並か平年より高かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.3～1.1℃高く、旬降水量は23～59ミリ（平年比140～381%）と多く、旬日照時間は平年比90～114%と飯塚と添田では少なく、その他は平年並か多かった。また、県内の多くの観測所で10月の月降水量の多い方からの第1位を記録した。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量と日照時間は多かった。

## (11) 11月の気象概況

### ○11月上旬：晴れの日が多い、気温は高い

上旬は旬の後半を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多く、雨はほとんど降らなかった。気温は旬を通して概ね平年並か平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.2～1.9℃高く、旬降水量は1～8ミリ（平年比3～28%）で、旬日照時間は平年比116～131%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は多かった。

### ○11月中旬：天気は短い周期で変化、気温は高い

中旬は高気圧と低気圧が短い周期で通過し、天気は周期的に変化した。11日は低気圧の影響で県内各地で8～44ミリの雨が降った。14日から15日にかけては前線の影響で県内各地で6～28ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃は寒気の影響で平年より低くなったが、前半を中心に高く経過した。特に11日は低気圧に向かって南から暖かい湿った空気が流れ込んだため気温が上がり、行橋、添田、甘木で日最高気温の高い方からの第1位を、八幡、太宰府で日最低気温の高い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より1.3～1.9℃高く、旬降水量は25～66ミリ（平年比103～264%）で、旬日照時間は平年比92～119%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は多かった。

### ○11月下旬：晴れの日が多い、気温は高い

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。26日は日本海の低気圧から延びる前線が九州を南下し、県内各地で0～7ミリの雨が降った。気温はすべての観測所で平年より高く、旬日照時間はすべての観測所で平年よりかなり多かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.5～1.1℃高く、旬降水量は0～7ミリ（平年比0～24%）と少なく、旬日照時間は平年比163～195%とかなり多かった。

また、県内の多くの観測所で11月の月間日照時間の多い方からの第1位を記録した。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。

## (12) 12月の気象概況

### ○12月上旬：天気は周期的に変化、4日は各地で大雨

上旬は高気圧と低気圧や前線が交互に通リ、天気は周期的に変化した。特に4日は九州を通過する低気圧に向かって発達した雨雲が次々と流れ込み、県内各地で66～111ミリの大雨となった。また、この日の雨で県内すべての観測所で12月の日降水量の第1位を更新した。気温は、旬を通して平年並か平年より高く経過し、特に前半はかなり高かった。県内各地の旬平均気温は平年より1.6～3.0℃高く、旬降水量は66～121ミリ（平年356～651%）でかなり多かった。旬日照時間は平年比131～164%とすべての観測所で平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間はかなり多かった。

### ○12月中旬：旬の中頃にかけて晴れの日が多く、気温はかなり高い

中旬は中頃にかけて高気圧に覆われて、晴れの日が多かった。12日と旬の終わりには気圧の谷の影響で、県内各地で数ミリ程度の雨が降った。気温は、後半を中心にかなり高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より2.9～4.3℃高く、旬降水量は0～6ミリ（平年比0～46%）と少なかった。旬日照時間は平年比119～147%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

### ○12月下旬：気圧の谷や寒気の影響で曇りや雪または雨の日が多く

#### 31日は福岡で4センチの積雪を観測

下旬は気圧の谷や寒気の影響で、曇りや雪または雨の日が多かった。22日から23日にかけては気圧の谷の通過後冬型の気圧配置となり、県内各地で0～15ミリの雨が降った。25日は気圧の谷の影響で県内各地で0～18ミリの雨が降った。31日は強い寒気の南下で冬型の気圧配置が強まり、福岡で4センチの積雪を観測するなど、県内各地で雪が積もった。気温は、旬の中頃まで平年並か高く経過したが、終わりは強い寒気の影響で平年より低くなった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.3～+0.6℃で、旬降水量は16～59ミリ（平年比151～333%）と多かった。旬日照時間は平年比48～70%と少なかった。また、県内の多くの観測所で12月の月平均気温の高い方からの第1位と、月降水量の多い方からの第1位を更新した。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

### (13) 月別値の階級区分

#### 福岡の月別値の解説用階級区分

年 月	平均気温	降水量	日照時間
平成 16 年 1 月	平年並	平年並	かなり多い
平成 16 年 2 月	かなり高い	平年並	かなり多い
平成 16 年 3 月	高い	平年並	多い
平成 16 年 4 月	かなり高い	少ない	かなり多い
平成 16 年 5 月	かなり高い	かなり多い	少ない
平成 16 年 6 月	かなり高い	平年並	かなり多い
平成 16 年 7 月	かなり高い	少ない	多い
平成 16 年 8 月	高い	平年並	平年並
平成 16 年 9 月	高い	かなり多い	かなり少ない
平成 16 年 10 月	平年並	かなり多い	平年並
平成 16 年 11 月	かなり高い	少ない	かなり多い
平成 16 年 12 月	かなり高い	かなり多い	多い

#### 解説用階級区分について

平成 13 年 1 月から使用を開始した 1971～2000 年統計値からは、「高い（多い）」、「平年並」、「低い（少ない）」の 3 階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」を補足的に用いることになりました。3 階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」（1：1：1）の等確率で、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」の出現率は 10%です。